

見学会

山本 芳裕 (やまもと よしひろ)

見学会部会長, 榊福山コンサルタント リスクマネジメント事業部 技師長

1. はじめに

見学会は全3コースで地盤工学会ならではの、一般の旅行では見学できない箇所を随所に盛り込みました。

梅雨末期の時期にもかかわらず見学会当日は天候にも恵まれ、全コース滞りなく盛況のうちに幕を閉じることができました。以下に各コースの概要を報告いたします。

2. 見学会のコース

2.1 北九州工場夜景クルーズ (大会3日目)

北九州はものづくりの街として知られ、関門海峡から洞海湾にかけて海沿いに多くの工場が林立しています。工場夜景クルーズは若戸大橋、若戸トンネルが横断する洞海湾を巡る約1時間の周回コースです。クルーズ船(口絵写真—42, <http://urx.nu/bmG4>)は、ほぼ、日の入りの時刻(19:27)に小倉港を出港し、時々刻々と夕闇が迫るサンセットタイムのなかで、工場夜景ナビゲーター(口絵写真—43)の説明を聞きながら、工場から放たれる幻想的な光を楽しみました。7月17日(木)実施, 参加者42名。

2.2 カルスト台地・門司港レトロと北九州港新門司沖土砂処分場 (大会4日目)

まず、日本三大カルストの一つであり、国の天然記念物にも指定されている平尾台では平尾台自然観察センターにおいて、学芸員の解説の下、カルスト地形の成り立ちや植生などについて学びました(口絵写真—44)。その後の野外観察では、自然が織りなす壮大な景色を目の当たりにしました(口絵写真—45)。

次に、門司港レトロ地区では、北九州市随一の観光地となった事業の経緯や国の重要文化財である門司港駅舎の大規模改修の様子(口絵写真—46)を、門司港レトロ課の担当者の説明を交えながら見学しました。昼食では、アインシュタイン夫妻が宿泊した歴史的建造物「旧三井倶楽部」で、名物の焼きカレーに舌鼓をうちました。

最後に、北九州空港へ移動し、北九州港新門司沖土砂処分場における埋立土の脱水処理施設(口絵写真—47)及び浚渫土砂の圧密促進工(プラスチックボードドレーン)を見学しました(口絵写真—48)。各担当者から現場を解説いただき、浚渫泥土を有効活用する実証実験及び処分場の容量を拡大するための地盤改良工の技術を学びました。

スケールの大きな工事現場を目の前にし、参加者と現場担当者間で活発な質疑応答がなされました。7月18日(金)実施, 参加者14名。

2.3 自然・歴史探求と五ヶ山ダム (大会4日目)

まず、西日本最大級の自然史・歴史博物館である、いのちのたび博物館を学芸員の解説の下、見学しました。特に時間軸に沿って大小多彩な恐竜が大集合した100mに及ぶ「進化の通り」は圧巻でした。また1億2千万年前の白亜紀を再現した360度のジオラマ(口絵写真—49)では、恐竜のリアルな動きや鳴き声が肌で感じられ、まるでタイムトリップ(口絵写真—50)したかのようでした。

次に、特別講演会でも話のありました水城と大宰府政庁跡の見学も行いました。水城は664年、唐と新羅の博多湾方面の攻撃から大宰府を守るために備えて築かれた全長2km、高さ13mの大規模な直線状の堀と土塁からなる防衛施設です。ボランティアガイド(口絵写真—51)によると、堀の幅60mは弓矢が届かない範囲として設計されているとのことでした。

最後に、現在建設中(口絵写真—52)の治水と利水の多目的ダムである那珂川水系那珂川に位置する五ヶ山ダム(重力式コンクリートダム:総貯水容量4,020万m³)を視察しました(口絵写真—53)。本現場では新工法である巡航RCD工法等の採用により従来のRCD工法より、効率化・高速化した施工が可能となり約2年で堤体(堤体積約935,000m³)のコンクリートを打設し終えるとのことでした(口絵写真—54)。さらに露頭見学の破砕帯(口絵写真—55)の説明に対しても活発な質疑応答がなされ大変有意義でした。7月18日(金)実施, 参加者12名。

3. おわりに

最後になりましたが、見学会に参加頂いた皆様、見学会を受け入れて頂いた関係諸機関(北九州市, 国土交通省九州地方整備局北九州港湾空港整備事務所, 福岡県五ヶ山ダム建設事務所, 公益財団法人古都大宰府保存協会等)の皆様並びに見学会部会スタッフをはじめ関係者の皆様方には、大変お世話になりました。末筆ながら誌上を借りて、お礼申し上げます。

(原稿受理 2014.7.31)